

「特別の教科 道徳」

～授業づくりと評価の工夫と充実～

1 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目的とする。

「小・（中）学校学習指導要領 第1章総則 第1の2（2）」

○ 児童生徒に養うべき「道徳性」

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

「小・中学校学習指導要領解説 総則編 第3章 第1節の2（2）」

道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められる。

「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2章 第2節の3」

このように、道徳性は一朝一夕で養われるものではありません。長い時間をかけて、じっくりと育て上げていく必要があります。



2 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小・（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2章 第2節」

(1) 道徳的諸価値の理解・・・生きて働く「知識及び技能」の習得

- ・人間としての在り方や生き方の礎となるもの
- ・よりよく生きるために必要とされるもの



将来、様々な問題場面に出合った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さについての理解が必要不可欠です。

○ 「道徳的価値を理解する」とは・・・

- ① 価値理解・・・よりよく生きる上で価値は大切であると理解する。
- ② 人間理解・・・大切だと頭ではわかっているがなかなか実行するのは難しい人間の弱さなどを理解する。
- ③ 他者理解・・・感じ方、考え方は人それぞれで多様であることを前提として理解する。
- ④ 自己理解・・・道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする。

◇ 道徳的価値自体を観念的に理解させる授業から脱却し、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通じたそのよさや意義、困難さ、多様さなどの理解を図る「考え、議論する道徳」への転換が求められる。



資料の登場人物のように、思いやりをもって人と接することは大切ですね。これから思いやりを大切にしていこうね。



資料の登場人物は、どうして思いやりをもつことができたのでしょうか？みなさんはできそうですか？

(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考える学習

・・・「思考力・判断力・表現力」等の育成

① 「自己を見つめる」学習

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めさせる。自分自身の体験や考え方、感じ方などを確かに想起させ、「自己の（人間としての）生き方」について考えを深めさせる学習活動が必要となる。

〈自己を見つめる学習を通して〉

児童生徒自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる。（よりよく生きることにつながる）

②「多面的・多角的に考える」学習

- 多様な考え方や感じ方に接し、対話や協働から物事を多面的・多角的にとらえる。
- 価値のよさや意義（価値理解）、困難さ（人間理解）、多様な考え（他者理解）などを理解する。

〈多面的・多角的に考える学習を通して〉

道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる。その中で自己の将来や社会の未来に夢や希望が持てるように指導することが大切である。

(3) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度（諸様相）を育てる

・・・**「学びに向かう力・人間性」等の涵養**

○ 道徳の諸様相

- ・ **道徳的判断力**・・・それぞれの場面において善悪を判断する能力（思考する力）
- ・ **道徳的心情**・・・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- ・ **道徳的実践意欲と態度**・・・道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

道徳的実践意欲・・・道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度・・・道徳的実践意欲に裏付けられた道徳的行為への身構え



「諸様相」は、将来の様々な場面、状況において道徳的価値を実現させるための適切な行為を主体的に選択し、実践することができる内面的資質です。どの資質を育てるのかを明確にして、授業に臨みましょう。

3 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

(1) 「主体的な学び」の視点

- **問題意識をもたせる**
 - ・ 子ども一人一人の実態把握
 - ・ 考えたい課題、切実な課題の設定（必然性）と学習の見通し
- **自分自身との関わりで考える**
 - ・ 共通体験の想起、活用（アンケートの活用）
 - ・ 個人で考える場の工夫
 - ・ 自分自身の変容の確認

(2) 「対話的な学び」の視点

- 多面的・多角的な思考
 - ・ 考える視点を固定しない発問の工夫
 - ・ 思考の見える化（板書、ノート、ワークシート等）
- 協働、対話、連携
 - ・ 学習形態の工夫、話合いのルール確立
 - ・ 教員や地域の方との対話
 - ・ ゲストティーチャーの参加

(3) 「深い学び」につながる指導方法の例

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

登場人物に共感して自分の体験から気持ちを考える学習

【教師の主な発問例】

- ・ どうして主人公は〇〇という行動をとることができたのだろう（または、できなかったのだろう）。
- ・ 主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。
- ・ 自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。

「道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）より」

② 問題解決的な学習

児童生徒の興味や関心から問題を取り上げ、これまでの知識や経験を基に、問題を解決する主体的な学習

課題を自分との関わりで見つめたとき、自分にはどのようなよさがあるのか、どのように改善すべきかなどを考え、話し合うことを通して、子どもたち一人一人が課題に対する納得解を導き出せるようにする。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

頭で考えたり、口で言ったりするのは簡単だが、それを行動に移すことの大切さや難しさを実感させる学習

単に体験的行為や活動そのものを目的とするのではなく、体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深められるように指導することが重要になる。

ここで挙げた3つの指導法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。多様な指導法の中から、学校や児童生徒の実態を踏まえ、授業のねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要です。



(4) 発問について

① 判断を問う発問

- ・ したことをどう考えたのか
- ・ 本当はそうしてよかったのだろうか
- ・ 自分ならこの判断についてどう考えるか
- ・ ～と考えた理由は何か
- ・ ～の状況ならどうすべきか
- ・ なぜ～を選んだか

② 心情を問う発問

- ・ どんな気持ちだろう
- ・ 思いを探ってみよう
- ・ どちらが～か
- ・ どんなことを思っているだろう

③ 実践意欲と態度を問う発問

- ・ 自分だったらどう考える(する)だろう
- ・ どうすれば～できたのだろうか
- ・ ～しようと思う(決めた)のはなぜか

④ 意味や価値を問う発問

- ・ なぜそのようにしたのだろう
- ・ どうなことに気付いたのだろう
- ・ なぜそこまでできたのだろう

4 道徳科の評価

(1) 評価の考え方

- ・ 子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を断続的に把握し、指導に生かす。
- ・ 個々の内容項目ごとでなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- ・ 数値などによる評価は行わない。(記述式)
- ・ 他の子どもとの比較(相対評価)ではなく、いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う。

(2) 道徳科の授業における児童生徒の評価の視点

① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- 道徳的価値にかかわる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
 - ・ ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
 - ・ 道徳的価値を支えている様々な根拠を考えている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
 - ・ 様々な登場人物の立場で考えている。
 - ・ 自分の考えと友達の考えを比べて考えている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。
 - ・ 時間と経過とともに変化する気持ちを考えている。
 - ・ 人間の強さや弱さなどを捉えて考えている。

②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
 - ・ 教材の登場人物に自分を置き換えて考えている。
 - ・ 教材の問題点を自分事として受け止めて考えている
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
 - ・ 日常生活や学校生活を想起しながら考えている。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動について他者と議論するなかで、道徳的価値の理解をさらに深めている。
 - ・ 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- 道徳的価値に基づいた行為を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。
 - ・ 自分だったらどうするかなどを考えている。



児童生徒の道徳性を評価することは、非常に困難です。よって、道徳科の評価は児童生徒の学習活動に着目し、二つの視点に基づいて行います。

(3) 授業を振り返るポイント

- 道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめられるように適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものであったか。
- 発問は、指導の意図に基づいて的確になされていたか。また、児童生徒の多面的・多角的な思考を促す上で適切な発問であったか。
- 児童生徒の発言を傾聴して受け止めるとともに、発言の背景を推察したり学級全体に波及させたりしていたか。
- 特に配慮が必要な児童生徒に適切に対応していたか。

児童生徒の姿から授業を振り返り、「指導と評価の一体化」を図りましょう。

